

No.	タイトル	著者	誌名	発行年	抄録	連携の対象・型	連携の内容
1	連載 病院管理フォーラム ■医療安全:Try Top Management First!・5 地域連携による医療安全ネットワーク構築-トップマネジメントの戦略的支援	石川 雅彦	病院 68 (8), 683-685, 2009-08-01	2009	本稿では, 平成19年4月より, 一般診療所, 歯科診療所, 助産所に義務化された医療安全管理体制の構築を含めた, 地域単位での医療安全管理体制整備の推進の必要性と, それを実現するための地域連携による医療安全ネットワーク構築, およびトップマネジメントの戦略的支援に関して述べる.	地理的に近い医療機関同士の連携	地域連携による医療安全ネットワーク構築
2	福島県会津地域の県立病院間におけるインシデント情報共有の効果 医療安全プロジェクトチームの活動を通じて	斎藤 拓朗(福島県立医科大学会津医療センター), 小山美保子, 荻原 健英, 浅野 宏, 橋本 重厚	医療の質・安全学会誌(1881-3658)8巻Suppl. Page257(2013.10)	2013	抄録なし	公立病院だけの連携	*医療事故防止, *多機関医療協力システム, *地域社会ネットワーク, 地方自治体病院, *インシデント・レポート
3	福島県会津地域の県立病院間におけるインシデント情報共有の効果 医療安全プロジェクトチームの活動を通じて	斎藤 拓朗(福島県立医科大学会津医療センター), 小山美保子, 荻原 健英, 浅野 宏, 宗像 修, 佐藤 忠, 大場 美和, 愛澤 正人, 斎藤 美智子, 箱崎 貴大, 星 まき子, 平野 文江, 金子 一夫, 菅野 俊彦, 内藤 公枝, 菅野 百恵, 橋本 重厚	福島医学雑誌 (0016-2582)64巻1号 Page11-17(2014.03)	2014	【対象と方法】 福島県では2006年から医療安全対策の向上を目的とし県立病院5施設の医療安全管理者が病院局の指導のもと医療安全プロジェクトチームとして活動してきた。2012年度は『病院毎のインシデント事例を定期的に集約して各病院へ周知し、情報の共有化を図る』を目標とした。参加施設は県立病院5施設および福島県病院局で、対象期間は2012年6月1日から2013年3月31日。各施設のインシデント件数と内訳およびインシデント検討事例を匿名化して福島県立会津総合病院で集約し各施設へ配信した。また各施設の医療安全担当者に対するアンケートを実施した。 【結果】 検討期間中に報告された各施設におけるインシデント件数は大きな変動を認めなかったが、入院症例100例に対するインシデント報告件数は有意に高値を示す施設を認めた。しかし、いずれの施設でも転倒・転落、注射・採血・点滴、投薬がインシデント件数の1位から3位を占めた。また、インシデントレベル2以上の割合は開始3ヵ月以降に低下傾向を認め、特に転倒転落に関するインシデントが減少した。アンケートでは他施設の検討事例を知ることの利点として、自施設の安全対策を見直し改善につながったこと、施設間に共通した検討事例の情報を施設内で伝達することにより医療安全に対する意識の向上につながったこと、などが挙げられた。(著者抄録)	公立病院だけの連携 県立病院間におけるインシデント情報共有	質問紙法, 転倒・転落, 投薬ミス, *医療事故防止, 多機関医療協力システム, 地域社会ネットワーク, 地方自治体病院, インシデント・レポート, KJ法, インシデント情報共有

No.	タイトル	著者	誌名	発行年	抄録	連携の対象・型	連携の内容
4	病院間における医療安全相互チェックを経験して 臨床検査部門が関連した事項について	久高 果市(国立病院機構東京病院臨床検査科), 浦田兼司, 梶原 弘通, 瀬下 明子, 太田和秀一, 岩淵 千尋, 平本 研二, 若林 弘, 浅里 功, 松本 優子, 柴田 久美子	国立病院総合医学会講演抄録集 68回 Page472(2014.11)	2014	抄録なし	国立病院間	*病院検査室, *臨床検査, *医療事故防止, 多機関医療協力システム
5	【医療安全管理者の仕事と環境づくり-モチベーション、ネットワーク、キャリアパス】実践報告 院外ネットワークの構築・活用 ネットワークの始まり、そして大きなネットワークから多様なネットワークへ	嶋森 好子(岩手医科大学 看護・政策研究部門(看護学部設置準備室))	患者安全推進ジャーナル46号 Page33-37(2016.12)	2016	地域における医療安全管理者ネットワークの始まりは、各都道府県看護協会による医療安全管理者養成研修会修了者のための交流会であろう。このネットワークは、各医療機関で一人孤独に新しい役割をこなしていた医療安全管理者が、心を許して情報交換できる場として、急速に広がった。医療の質・安全学会では、2012年度から医療安全管理者養成研修会を行い、その修了者を中心とした医療安全管理者ネットワーク会議を、継続的に開催している。現場の医療安全管理者は、こうしたネットワークに参加するとともに、その成果を地域に持ち帰って新たなネットワークをつくり、地域全体の医療安全につなげてほしい。(著者抄録)	地理的に近い医療機関同士の連携	医療安全管理者ネットワーク
6	【医療安全管理者の仕事と環境づくり-モチベーション、ネットワーク、キャリアパス】実践報告 院外ネットワークの構築・活用 福島県における医療安全管理者ネットワーク	須田 喜代美(竹田総合病院 医療の質管理部医療安全管理室)	患者安全推進ジャーナル46号 Page38-41(2016.12)	2016	福島県では2012年3月から、「福島医療の質・安全フォーラム」という研究会が立ち上げられた。医療安全を中心とした安全管理対策に関する学術的・実践的な検討を行うこと、相互連携を図りながら情報交換を行い、医療の質の向上を目指すことが目的である。年1回の研究会開催が主な活動であり、県内の各地域の中核病院が持ち回りで幹事病院を務める。県内の病院で実践している医療安全対策を報告し合い、悩みや改善策を共有できる場ができたことで、県内の医療安全管理者同士のコミュニケーションが円滑になった。地域における医療安全管理者ネットワークができるまでの経緯を、1施設の医療安全管理者の視点からまとめた。(著者抄録)	地理的に近い医療機関同士の連携 医療安全を中心に情報交換	福島医療の質・安全フォーラム

No.	タイトル	著者	誌名	発行年	抄録	連携の対象・型	連携の内容
7	全国初の、地域で取り組む医療安全ネットワーク「藤田あんしんネットワーク」の活用（前編）	杉岡 篤 藤田保健衛生大学 副学長 / 医学部 外科学（肝臓・脾臓）講座 主任教授 / 前医療の質・安産対策部長、前手術・中央材料部長		2016	（参考）2016年3月、藤田保健衛生大学では、地域全体の医療安全の向上を目的として「藤田あんしんネットワーク」を設立しました。医療安全の観点から各医療機関をつなぐネットワークは、全国的にもほかに例がなく、地域医療のひとつのかたちとして今後の運用に注目が集まっています。 https://nursing-plaza.com/interview/894-2/	地理的に近い医療機関同士の連携 藤田あんしんネットワーク 藤田保健衛生大学と近隣の医療機関が連携して地域の医療安全に貢献する、会員型ネットワーク	「藤田あんしんネットワーク」は、藤田保健衛生大学と近隣の医療機関が連携して地域の医療安全に貢献する、会員型ネットワーク。医療事故が発生した場合に24時間365日いつでも電話相談ができる仕組みが整っている
8	全国初の、地域で取り組む医療安全ネットワーク「藤田あんしんネットワーク」の活用（後編）	杉岡 篤 藤田保健衛生大学 副学長 / 医学部 外科学（肝臓・脾臓）講座 主任教授 / 前医療の質・安産対策部長、前手術・中央材料部長		2016	https://nursing-plaza.com/interview/896/	地理的に近い医療機関同士の連携	同上
9	医療安全地域ネットワークをつくろう	辰巳 陽一(近畿大学医学部附属病院血液・膠原病内科),楠本 茂雅(ベルランド総合病院クオリティ管理センター),長谷部 圭司(北浜法律事務所),松島 元子(大阪労災病院)	病院安全教育 4(2) Page49 - 67	2016	抄録なし	地理的に近い医療機関同士の連携	南大阪医療安全ネットワーク

No.	タイトル	著者	誌名	発行年	抄録	連携の対象・型	連携の内容
10	前向き医療安全 第5回 南大阪医療安全ネットワーク軍団の野望!~High Reliability Organizationから High Reliability Areaへ!	辰巳陽一((近畿大学医学部附属病院血液・膠原病内科)	病院安全教育 3(5) Page21-26	2016	抄録なし	地理的に近い医療機関同士の連携	南大阪医療安全ネットワーク
11	地域医療連携	佐藤 正通(国立病院機構高崎総合医療センター 総合診療科・内科)	日本病院総合診療医学会雑誌 (2185-8136)13巻2号 Page60-62(2017.09)	2017	地域医療連携について次の項目で概説した。1)医療連携の質と医療安全、2)地域医療連携システムを構成するチーム医療、3)臨床教育に求められる地域病院群形成、4)地域医療連携の未来。20年前では一医療機関による診療がすべての診療行程を担っている場合が多く、現在とは対照的と言わざるを得ない。今後にあっても医療安全の面、診療の質の面から、地域内における診療機能分化や役割分担は行政的グローバルデザインを目標とし、加速度を増しこの国の医療の形として定着していくことが予測される。機能分化が進むと同時に並行して発展しなければならないのが地域医療連携であり、現時点をもってしても連携医療の推進なくして自院の経営は困難となっている。ポイント①医療連携の質と医療安全②地域医療連携システムを構成するチーム医療③臨床教育に求められる地域病院群形成④地域医療連携の未来	地理的に近い医療機関同士の連携	地域医療連携
12	【医療倫理・医療安全・医療事故調査制度】藤田あんしんネットワークによる診療所等の安全管理を高める取り組み	杉岡 篤(藤田保健衛生大学 医学部 総合消化器外科学)	現代医学(0433-3047)65巻1号 Page45-50(2017.06)	2017	藤田保健衛生大学は2016年3月1日に「藤田あんしんネットワーク」として会員制の地域医療機関のネットワークを設立した。その趣旨は、地域の医療機関と藤田保健衛生大学が一体となって、地域の医療安全を向上させることであり、2018年5月の時点で231施設が加盟している。活動内容は、新たな医療事故調査制度(医療事故調)に対する支援とともに、定期的に医療安全、医療の質、感染対策についての教育、研修会やセミナーを開催し、医療全般に関する相談や弁護士による法律相談も行っている。今後同様の取り組みが全国に展開され、医療事故調の支援体制を補完し、医療安全を強化するシステムが構築されることが期待される。(著者抄録)	特定機能病院など大学病院との連携 医療安全での連携 地域の病院、クリニック、助産院、各種医療施設と藤田医科大学とで構成	藤田あんしんネットワーク

No.	タイトル	著者	誌名	発行年	抄録	連携の対象・型	連携の内容
13	【地域連携と相互評価 その実際と可能性】医療安全の地域連携、相互評価がもたらすもの	森川 秋月(旭川赤十字病院)	患者安全推進ジャーナル53号 Page10-15(2018.09)	2018	2018(平成30)年度診療報酬改定による「医療安全対策地域連携加算」の新設によって、医療安全に関する病院間の情報共有と連携強化が進むことが期待される。医療安全対策加算1の届け出病院同士の相互評価による安全対策の質向上もさることながら、医療安全対策加算2の届け出病院を加算1病院が評価することによる医療安全体制の充実や、さまざまなノウハウの伝達の意義も大きいと思われる。高齢患者の増加に伴い、急性期病院と地域包括ケア病床を有する医療機関との患者転院・紹介は増加していて、患者の病態や状態を医療機関同士で共有するのと同様に、医療安全や感染管理に関する意識と体制を共有することは、今後ますます重要になるだろう。(著者抄録)	中小規模の医療機関の連携 医療安全対策加算1の届け出病院同士の相互評価 医療安全対策加算2の届け出病院を加算1病院が評価	*臨床監査, 嚥下障害, 生涯教育, *医療事故防止, 現職教育, *多機関医療協力システム, *地域社会ネットワーク, 診療報酬, 摂食機能障害, 医療安全対策地域連携加算
14	【地域連携と相互評価 その実際と可能性】小倉医療センター 国立病院機構における医療安全相互チェック	野尻 正美(国立病院機構小倉医療センター)	患者安全推進ジャーナル53号 Page16-20(2018.09)	2018	「医療安全対策地域連携加算」が新設され、当院(医療安全対策加算1)も北九州医療圏内の保険医療機関と連携し、各病院間において医療安全対策に関する評価を行っていく予定である。当院の設置主体である国立病院機構(NHO)では、2013年度から病院間における「医療安全病院間相互チェック」を実施している。二度の相互チェックを経験したことを踏まえて、準備から実施内容、およびその効果について、医療安全管理者の視点で紹介する。(著者抄録)	公立病院だけの連携 地理的に近い医療機関同士の連携 国立病院機構(NHO)での医療安全病院間相互チェック	医療安全対策地域連携加算,*臨床監査,*医療事故防止, 組織効率,*多機関医療協力システム, 公立病院, チェックリスト
15	【地域連携と相互評価 その実際と可能性】KKR札幌医療センター 国家公務員共済組合連合会における医療安全ラウンド(相互チェック)の経験・成果	小池 雅彦(KKR札幌医療センター 医療安全管理部)	患者安全推進ジャーナル53号 Page21-25(2018.09)	2018	2015年から国家公務員共済組合連合会では、医療安全対策ブロック会議の機会を利用して、相互チェックを行ってきた。相互チェックをとおしてさまざまな発見があり、各病院の医療安全の底上げにつながり、問題点の共有にもなった。2018年度から医療安全対策地域連携加算という新しい制度ができたが、実際にどのように運用するかは、まだ暗中模索の状態であるものの、連合会での相互チェックの経験を生かして、行っていきたいと考えている。(著者抄録)	公立病院だけの連携 国家公務員共済組合連合会相互チェック	KKR札幌医療センター 国家公務員共済組合連合会における医療安全ラウンド(相互チェック)の経験・成果
16	【地域連携と相互評価 その実際と可能性】神戸労災病院 労災病院間医療安全相互チェックの実際 自院の強みを知り、他院に学ぶ	藤井 裕子(労働者健康安全機構神戸労災病院 医療安全管理室)	患者安全推進ジャーナル53号 Page26-30(2018.09)	2018	当院では、2006年より近隣労災病院で「労災病院間医療安全相互チェック」を実施している。共通のチェックシートを用いることで、医療安全対策に関する相互目標や基準が明確になり、相互チェックや評価が行いやすい。他院との意見交換やチェックにより自院の課題が明確になるとともに、他院からの指摘は受け入れやすく、改善につなげることが容易となる。さらに近隣労災病院で情報交換を図ることでネットワークが構築され、医療安全対策の標準化や医療安全の質の向上にもつながっている。(著者抄録)	地理的に近い医療機関同士の連携 労災病院間医療安全相互チェック	労災病院間医療安全相互チェック,*臨床監査,*医療事故防止,*多機関医療協力システム, チェックリスト

No.	タイトル	著者	誌名	発行年	抄録	連携の対象・型	連携の内容
17	【地域連携と相互評価 その実際と可能性】南大阪医療安全ネットワーク 地域の中小病院を支援するためのネットワーク活動	楠本 茂雅(ベルランド総合病院 クオリティ管理センター)	患者安全推進ジャーナル53号 Page34-38(2018.09)	2018	南大阪医療安全ネットワークは、2013年より大阪府の南河内2次医療圏と、堺市2次医療圏の急性期の9病院の医療安全管理者、および弁護士の10人が幹事となり、地域の中・小規模病院の医療安全管理者を支援し、医療における高信頼性地域(HRA)を構築することを目標として、独特なスタイルによる研修会活動や、メーリングリストによる支援活動などを行っている。医療安全対策地域連携加算のなかでは、訪問調査時に中小病院のニーズを把握し、それをネットワークの活動にフィードバックさせてPDCAサイクルを回し続けることで、ネットワークの目標を達成していきたいと考えている。(著者抄録)	地理的に近い医療機関同士の連携 医療安全での連携 【幹事病院】近畿大学医学部附属病院/ベルランド総合病院/大阪南医療センター/PL病院/大阪府済生会富田林病院/耳原病院/市立堺病院/大阪労災病院	南大阪医療安全ネットワーク
18	【地域連携と相互評価 その実際と可能性】筑後大牟田医療安全管理者交流会 切磋琢磨できる地域連携を目指して	本田 順一(雪ノ聖母会聖マリア病院 医療の質管理本部)	患者安全推進ジャーナル53号 Page39-41(2018.09)	2018	福岡県南部地域に筑後大牟田医療安全管理者交流会を発足させ、2ヵ月に1回の割合で各施設における活動報告を行ったり、メーリングリストを用いた情報交換・共有を行っている。この活動を通じて、連携施設の現在の状況や改善状況が把握できるようになってきた。また、各施設の医療安全管理者のモチベーション向上や、不安の軽減に寄与できている。今後は、連携施設以外の施設をいかにして巻き込み、連携への医師の参加を促していくか、また、連携をとおして得られた自施設の医療安全レベルの向上をどう評価するか、が課題である。(著者抄録)	地理的に近い医療機関同士の連携 2018年医療安全研修/交流会は100~200床42.6%、300~400床27.8%	筑後大牟田医療安全管理者交流会
19	【地域連携と相互評価 その実際と可能性】医療安全対策地域連携加算の新設に期待する効果	芝田 おぐさ(厚生労働省医政局 総務課医療安全推進室)	患者安全推進ジャーナル53号 Page42-44(2018.09)	2018	医療安全対策地域連携加算は、各施設間の連携に基づき行われる相互チェックを評価する仕組みとして新設された。これにより、医療安全管理部門の体制充実、地域連携の構築による医療安全のボトムアップが図られることが期待される。相互チェックをとおして、医療安全のさまざまな要素を測定して他施設と比較すること(ベンチマーキング)は、自院や地域の医療安全への取り組み状況を周知して、地域住民や患者に安心感を与えることにつながり、また透明性を推進することで、医療安全の向上が図られると考えている。なお、医療安全評価の標準的な評価項目については、2019年度初めをめどに提示・公表することが予定されている。(著者抄録)	地理的に近い医療機関同士の連携	医療安全対策地域連携加算 相互チェック
20	飯田下伊那地域における医療安全連携: 南信州医療安全ネットワークの取り組み	川上, 善久, 長谷部, 優	信州公衆衛生雑誌 13 (1), 28-29, 2018-08	2018	要旨: 医療安全活動に取り組む中、対策に苦慮することは多々ある。また、医療の安全すなわち患者の安全を考えると、それは地域の医療機関が地域住民と共に一丸となって取り組むべき課題でもある。飯田下伊那地域の8病院の医療安全担当者が集まり「南信州医療安全ネットワーク」として活動している。平成30年度診療報酬改定では「医療安全対策地域連携加算」が新設され、医療安全の地域連携が注目される中、発足から5年が経過した南信州医療安全ネットワークの取り組みを紹介する。	地理的に近い医療機関同士の連携 飯田下伊那地域の8病院の「南信州医療安全ネットワーク」	南信州医療安全ネットワーク

No.	タイトル	著者	誌名	発行年	抄録	連携の対象・型	連携の内容
21	【多角的にみる安全ラウンドの視点-職種間・部門間・病院間】PDCAサイクルにつなげる多職種での安全適時ラウンドのポイント	北川 佳奈子(旭川医科大学病院 医療安全管理部)	病院安全教育6巻6号 Page13-16(2019.06)	2019	抄録なし	職種間・部門間・病院間のPDCAサイクルにつなげる多職種での安全適時ラウンド	*専門職間人間関係, 転倒・転落, *医療事故防止, *品質改善
22	【多角的にみる安全ラウンドの視点-職種間・部門間・病院間】明石市近隣地域での医療安全相互評価の取り組み 地域の医療安全風土を醸成するための顔の見える相互チェック	田中 宏明(明石市立市民病院 品質管理室)	病院安全教育6巻6号 Page31-36(2019.06)	2019	(参考) あかし医療安全ネットワーク 訪問評価 https://www.med.kindai.ac.jp/iryozanzen/minami/index.html	地理的に近い医療機関同士の連携 明石市近隣地域での医療安全相互評価	*医療事故防止, *組織の文化, *多機関医療協力システム, *地域社会ネットワーク, 診療報酬, チェックリスト, *品質改善
23	【多角的にみる安全ラウンドの視点-職種間・部門間・病院間】医療安全地域連携評価の実践 南大阪医療安全ネットワークで作成した評価表を使って	堀田 いずみ(宝生会PL病院 医療安全管理室)	病院安全教育6巻6号 Page37-46(2019.06)	2019	(参考) https://www.med.kindai.ac.jp/iryozanzen/minami/index.html	地理的に近い医療機関同士の連携 医療安全での連携 【幹事病院】近畿大学医学部附属病院/ベルランド総合病院/大阪南医療センター/PL病院/大阪府済生会富田林病院/耳原病院/市立堺病院/大阪労災病院	*医療事故防止, *多機関医療協力システム, *地域社会ネットワーク, 診療報酬, 大阪府, チェックリスト
24	提携病院間における患者誤認防止相互ラウンド活動とその効果	中島 美佐子(あんしん会四谷メディカルキューブ)	日本医療マネジメント学会雑誌(1881-2503)20巻Suppl. Page190(2019.07)	2019	【背景と目的】S社と提携している20病院と1クリニック(以下提携病院)は年に3回情報交換と研修を目的に医療安全部会を開催している。2015年度からは、提携病院間の地域活動を展開し、東京ブロックの4施設では、2016年度から「患者誤認防止相互ラウンド」を開始した。「ラウンドチェック表」、「改善報告表」とインシデント・アクシデント(以下IAとする。)を可視化するための「患者誤認件数集計表」を作成し、ラウンドによる現場確認と件数集計の両面からブロック全体での評価を行った。その結果、様々な効果を得ることが出来たので報告する。	地理的に近い医療機関同士の連携 提携病院間での相互ラウンド	*患者識別システム, 管理者, *多機関医療協力システム, インシデント・レポート, チェックリスト

No.	タイトル	著者	誌名	発行年	抄録	連携の対象・型	連携の内容
25	医療安全対策地域連携に伴う病院間相互ラウンドの取り組み	済生会和歌山病院 医療安全管理者 澤田 康幸		2020	相互ラウンドを実施することにより、期待される効果としては、 ①医療安全対策における自施設の課題が明確になり、他施設の良い取り組みを情報共有することで、病院全体の医療安全の向上を図るとともに、医療の質の向上にもつながる。 ②単なる指摘だけでなく、評価する側、評価される側も医療安全に対する姿勢が高まるとともに、より良い人材育成をすることにもつながる。 ③相互チェック実施後も医療事故発生時の原因究明・再発防止策の助言など相互の病院でも連携体制が期待される等が考えられる。 http://www.wakayama-kangokyokai.or.jp/new_site/medical-safety/pdf/20201005.pdf	地理的に近い医療機関同士の連携 済生会和歌山病院の医療安全対策 地域連携に伴う病院間相互ラウンド	済生会和歌山病院は、加算1の相互ラウンド施設は、利便性を考慮し日本赤十字社和歌山医療センターと行っている。加算2のラウンド施設も比較的移動距離の近いA整形外科病院とBリハビリテーション病院である
26	「国立病院機構における医療安全相互チェック：転倒・転落防止策評価について」	独立行政法人国立病院機構 南和歌山医療センター 元医療安全管理係長 柏木 雅美 元看護部長 西尾 育子		2020	【まとめ】相互チェックの結果から、転倒転落後の対応手順が作成され、当直医も病棟看護師も基準に則り行動できるようになった効果は大きいと考える。解決困難な事も他施設からの意見を受けることで問題解決の糸口となった。 https://www.wakayama-kangokyokai.or.jp/wp2021/wp-content/uploads/2021/03/20200702.pdf	公立病院だけの連携 国立病院機構内でのチェック 独立行政法人国立病院機構 南和歌山医療センターと京都医療センターと転倒転落に特化した医療安全相互チェック	独立行政法人国立病院機構 南和歌山医療センターは、京都医療センターと転倒転落に特化した医療安全相互チェックを行った。
27	医療安全対策地域連携加算	宮崎浩彰	患者安全推進ジャーナル 2020;別冊:Page32-33.	2020	医療安全対策地域連携加算について以下の事項で解説。 ・1)相互評価の経緯,2)相互評価の実際,3)事前準備が重要,4)「外部評価」の有効活用,5)評価病院の担当者が注意すべきこと,6)重点項目の設定。 ・2)では関西医科大学が連携病院を訪問した時の様子を紹介。 ・医療安全対策地域連携加算の概要についても解説。	医療安全対策地域連携加算の解説	ヒト,*協力,*医療費,事故防止,安全性,*安全対策,安全教育,事故
28	ピアレビュー	宮崎浩彰	患者安全推進ジャーナル 2020;別冊 Page28-29.	2020	ピアレビューについて以下の事項で解説。 ・1)ピアレビューが必要な理由,2)通常業務に関するピアレビュー,3)有害事象(医療事故)発生時のピアレビュー,4)心理的安全性の確保,5)事前準備が重要。 ・はじめにさまざまなピアレビューの形式を紹介。 ・2)では関西医科大学附属病院における医療安全ラウンドの年間計画を提示。 ・3)では事例検討会とM&Mカンファレンスについて解説。	ピアレビューの解説	ヒト,*審査,事故防止,*安全性,*安全対策,安全教育,事故,安全管理,会議,事例研究

No.	タイトル	著者	誌名	発行年	抄録	連携の対象・型	連携の内容
29	【大学病院は地域病院を支えられるか】 地域医療連携推進法人北河内メディカルネットワーク 参加法人の立場から	小林 卓(山弘会)	病院(0385-2377)80巻2号 Page150-152(2021.02)	2021	<文献概要>はじめに 初めて関西医科大学から地域連携推進法人の立ち上げと参加の打診をいただいた時は、そのような法人が新たに位置づけられたことを耳にした程度で、詳細は知らなかった。地域医療連携推進法人北河内メディカルネットワーク(以下、KMN)へ参加したことで、大学病院の経営状況が変化してきていること、それにより地域医療との関わり方や地域病院への支援に変化が生じていることを知る機会となった。さらに、当法人が存在する北河内医療圏では、関西医科大学を中心としたネットワークが形成されることで、かかりつけ医から高度医療まで、一次救急から三次救急まで、をつなぐ医療システムが構築されることになり、患者を含む全ての地域住民が安心して暮らし続けることができる。これは、当法人が目指す「医療の提供を通じて地域の健康と安心に貢献する」ことにもつながると考えた。これらのことは、法人設置に向けての準備会議などに参加し、無事に大阪府より第1号として認可(正確には2法人同時認可)され、理事としてKMNに関わる中で感じている。以下、まずは当法人の紹介を行い、その後にKMNへの参加に至る経緯、最後に参加法人から見る現在の活動と今後の活動への期待を述べる。	特定機能病院など大学病院との連携 特定機能病院と地域中小病院の連携	関西医科大学を中心とした北河内医療圏
30	高難度新規医療技術導入に対する取り組み 特定機能病院間相互ピアレビュー実施状況の報告「高難度新規医療技術を用いた医療の提供の適否等を決定する部門の運用状況」	綾部 貴典(宮崎大学医学部附属病院医療安全管理部), 後 信, 工藤 篤, 北村 温美, 西塔 拓郎, 中村 京太, 中島 和江	日本外科学会雑誌(0301-4894)122巻5号 Page546-548(2021.09)	2021	抄録なし	特定機能病院間	カテーテル法, 機器のデザイン, 内視鏡法, ピアレビュー(医療), *特定機能病院, ロボット手術

No.	タイトル	著者	誌名	発行年	抄録	連携の対象・型	連携の内容
31	医療安全対策における地域連携の現状と課題 地域連携に伴う病院間相互ラウンドの取り組みの立場から	澤田 康幸(済生会和歌山病院 医療安全管理室)	日本医療マネジメント学会雑誌(1881-2503)23巻Suppl, Page141(2022.07)	2022	<p>当院は200床を有する2次救急医療を担う病院であり、地域社会と連携を密にして、地域から求められる病院を目指している。2018年より医療安全対策地域連携加算1を取得し、加算1はA病院と、加算2はB整形外科病院及びCリハビリテーション病院と連携している。</p> <p>医療安全対策地域連携に伴う病院間相互ラウンド（以下、相互ラウンド）の目的は、医療事故防止を図るため、第三者的視点からの検証を通して、各病院の医療安全強化・改善に繋げること。また病院間のコミュニケーション及び情報共有を図り、訪問する側、受け入れ側の双方が医療事故防止策について学ぶことである。</p> <p>相互ラウンドを実施することにより期待される効果としては、①医療安全対策における自施設の課題が明確になること、②他施設の良い取り組みを情報共有することで、病院全体の医療安全及び医療の質の向上に繋がること、③単なる指摘だけでなく、評価する側、される側とも医療安全に対する意識・姿勢が高まること、④相互ラウンド実施後も連携がスムーズになり、医療事故発生時の相談・原因究明・再発防止策の助言などが期待されること等が挙げられる。</p> <p>ラウンドは、その施設全体の医療安全に対する意識が高まり、前向きに取り組む姿勢に繋がるよう心掛けなければならない。それにより、ラウンド対象施設の医療安全の醸成及び医療の質向上にも繋がると思われる。</p>	地理的に近い医療機関同士の連携 医療加算1、医療加算2の連携	医療事故防止,*多機関医療協力システム,*地域社会ネットワーク,和歌山県

No.	タイトル	著者	誌名	発行年	抄録	連携の対象・型	連携の内容
32	中・小規模病院の医療安全対策における地域連携の現状と今後の連携に望む内容	是村 利幸(東京医療保健大学 大学院医療保健学研究科), 佐々木 美奈子, 末永 由理, 高橋 静子, 李 廷秀	日本医療マネジメント学会雑誌(1881-2503)24巻1号 Page2-7(2023.06)	2023	本研究は、病院間で行っている中・小規模病院における連携の実施状況と今後の連携に望む内容を病院規模別に、地域連携加算種別に明らかにすることを目的とした。全国で医療安全対策加算1と2を届出ている3,794の病院を対象に行われたWeb調査データを利用した。分析対象は、連携加算の届出の有無に関わらず、病院間で連携している中規模(200-499床、n=361)、小規模(20-199床、n=293)病院とし、病院規模別に地域連携加算種別(1か2)の比較を行った。連携内容別の実施割合は、「医療安全対策に関する相互評価」と「情報交換」が高く、「研修の参加/実施」と「事例の検討」は低かった。今後連携に望む内容への回答割合は、「情報交換」と「気楽な相談」が高く、「事例の検討」と「勉強会の開催」は低かった。この結果は病院規模に関わらず同様であった。病院規模と連携加算種別では、中規模では「情報交換」と「マニュアルの提供」が、小規模では「マニュアルの提供」と「研修の参加/実施」の実施割合が加算2に比べて加算1で有意に高い結果であった。連携に望む内容は、中規模病院でのみ「気楽な相談」が加算2に比べ加算1で有意に高く、小規模病院では加算種別の違いはみられなかった。中・小規模病院の連携では、「情報交換」の実施割合とニーズがともに高かったことから、今以上に情報交換を行いやすい環境作りが必要と考えられた。(著者抄録)	当院は200床を有する2次救急医療を担う病院であり、地域社会と連携を密にして、地域から求められる病院を目指している。2018年より医療安全対策地域連携加算1を取得し、加算1はA病院と、加算2はB整形外科病院及びCリハビリテーション病院と連携している。	病院規模別、地域連携加算種別の連携の実施状況
33	第18回医療の質・安全学会学術集会 PD-3-3 医療安全管理者の現状と今後への期待～看護師の立場から、PSPのアンケート結果を踏まえて～	大久保 典子 地方独立行政法人 下関市立下門病院 / やました整形外科クリニック	医療の質・安全学会学術誌 2023年18巻197	2023	初代の医療安全管理者から引き継ぐ形で、急性期医療を担う地域における中核病院(382床)で、8年間医療安全管理者として職責を担ってきた。医療安全に関してさして知識もない状態で、また多くの施設がそうであるようにワンオペの状況で病院の医療安全を担う形となり、不安と変な気負いしかなかったように思う。様々な問題にぶつかったが何とかやってこられたのは、周囲の支えがあったことが一番だと感じている。そのひとつが日本医療機能評価機構 認定病院患者安全推進協議会(以下、PSP)の存在である。PSP 教育プログラム部会(以下、部会)の企画した「ワンオペ(おひとりさま)医療安全 応援プロジェクト」をはじめとする研修やセミナーに参加したことや、部会員として学びの場があったことが自身のモチベーションにつながった。厚生労働省の医療安全対策加算等の施設基準としてはどの施設も同じであるが、医療安全管理者が置かれている状況は様々である。今年度、部会として医療安全管理者に対してアンケートを実施した。医療安全管理体制について、医療安全管理者の業務についてなど50余りの質問に160以上の施設から回答を頂いた。今回、アンケート結果の報告と、自身の経験した看護師の立場でのワンオペの現況と今後への期待を共有し、これからの医療安全管理者がやりがいを感じながら職責を担える一助になる機会としたい。	医療安全管理者のネットワーク	医療安全管理者に対してアンケートを実施